

通流沢
赤川中俣(下降)

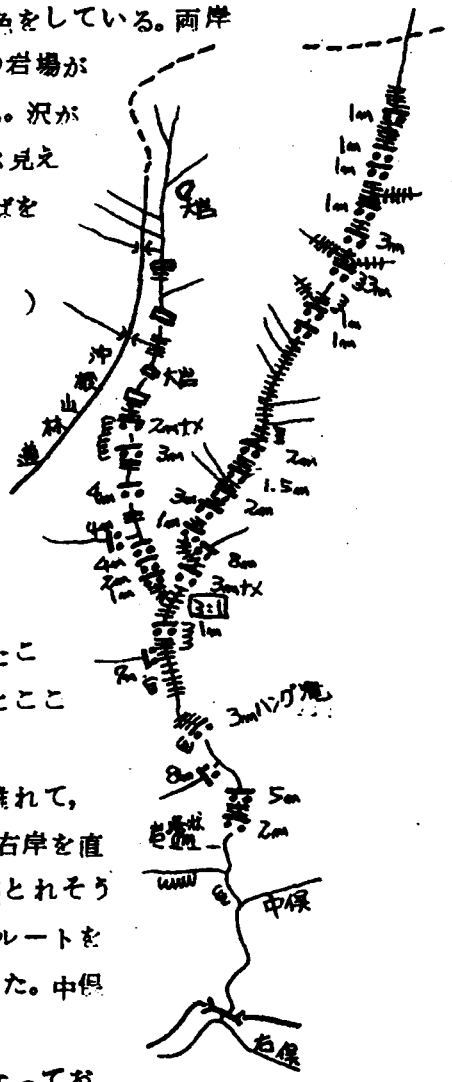
1982年7月11日
L

やぶこぎ15分位で沢に出る。右岸にいくつもの炭焼き釜あとを見ながら下降する。やがて沢が狭くなって右岸から支沢が合流する所を過ぎ、しばらく下ると1.5mの滝。両側は岩場になっている。途中に倒木がひっかかっている。クライミングダウンにて下降。この先沢が右に曲がった所に、3mの滝をかけ、大きな支沢が合流している。

岩質が変わった。種類はわからないが黒っぽい色をしている。兩岸に岩場が次々に出てくる。所々にナメがある。この岩場が終わる頃、植林地帯に出る。やがて左俣が合流する。沢が右、左へとつづら折れのように曲がる。やがて橋が見えてきた。今朝方通過した右俣との合流点のすぐそばを走る林道の橋である。下降終了13時55分。

(記:)

尾根・下降点(11:05) — 沢(11:20) —
左俣出合(13:45) — 右俣出合(13:55)



南沢
赤川左俣

1982年8月13日

右俣および中俣の様子から、この左俣もたいしたこととはなかろうと思い、今日は少し息ぬきをしようところを選んだ。

左俣に入るとまもなく、沢は明るい植林地帯を離れて、林の中を流れるようになる。5mの滝が出てきた。右岸を直登する。ホールドが豊富なので、いろんなルートがとれそう。少し進むと今度は3mハンク滝。滝の右はしにルートを求め、流木を利用して越える。この先はナメとなった。中俣や右俣とはかなり様相が異なるようだ。

9時30分、右沢出合。左沢を進むが、小滝が連なっており、劇的な面白さはないが、退屈することもない。やがて、

赤川左俣

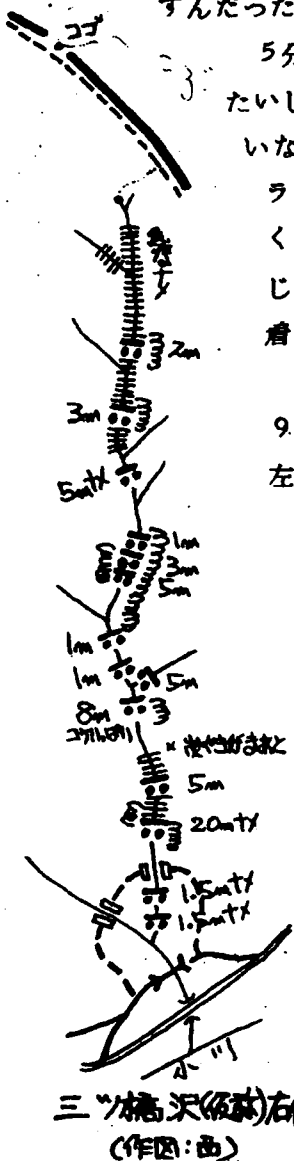
じゃかごに石をつめたものを積み重ねただけの簡単な砂防ダムが出てくる。右岸をみると林道がみえる。どうも営林署がさかんに伐採を進めている地域のような。大岩を越えたあたりでは、もう沖根山林道がすぐそばを走っていた。10時ちょうどに沢から上がる。

小尾根2つを越えて10時45分、右沢への下降を開始する。ここまでくるのにまさか道があるとは思わなかったから、下降点を求めてどンドンヤブをこいでいたら、しっかりした踏跡に出た。これなら左沢源頭の伐採地のあたりでよくさがすんだったと思ったが、いたしかたない。

5分も下ると急傾斜のナメとなる。ナメというのは登る時にはたいして障害ともならないが、下降する時には、なかなかやっかいなしろものである。所々ブッシュにつかまったり、慎重にクライミングダウンしたりしながら進む。20分程下ってようやく傾斜がゆるやかとなり、歩きやすくなった。ナメは小滝をまじえながら左沢との出合までずっと続いていた。左沢出合到着12時ジャスト。

(記)

溯行開始(8:35)——中俣出合(8:45)——右沢出合(9:30)——沢終了(10:00)——下降開始(10:45)——左沢出合(12:00)——下降終了(12:30)



三ッ橋沢(仮称)右俣

1982年6月12日

天気晴。14:15溯行開始。水量はぐっと少ない。この沢は雪どけ時期や大雨の後以外は、いつもわずかの流れでしかない。今は橋脚だけとなってしまった、13号国道の一番古いルートにかかる名残りの橋を過ぎるとすぐにナメ滝。どまん中を登る。その上の5m滝を越えると100mほどのナメが続く。沢幅がせまく、樹林中なので、ナメ特有のそう快さは味わえない。カモシカの足跡がいっぱいついている。どうも通り道になっているようだ。左岸に昔の炭焼き釜のあとをみる。8mのコケいっぱい滝が出てきた。すべらないよう、気をつ